



2000年6月5日

# オープン マルチメディアフロア

外国語教育研究センターと情報教育研究センターが図書館と協力し、この度西図書館三階に「マルチメディアフロア」がオープンしました。6月5日から運用を開始しています。

マルチメディアフロアには、自習専用のICE Linux端末130台が設置してあります。西図書館二階の演習室が授業中等で混雑している時にもここを利用して頂けます。

マルチメディアフロアには下記の6つのコーナーがあります。

.....フロア紹介.....	
1. 情報教育端末用 オープンスペース	ICE Linux130台
2. 外国語自習室	Mac60台
3. VOD 端末コーナー	Windows45台
4. 隔離型外国語学習ブース	16個の個室にiMac (またはWindows)
5. マルチメディア自習室	Macintosh21台
6. 情報化グループ学習室	ICE Linux8台



### 1. 情報教育端末用オープンスペース

情報教育研究センター演習室(西図書館二階)、総合情報処理センター演習室と同様の環境の端末を利用することができます。

### 2. 外国語自習室

充実した外国語自習用ソフトにより、マルチメディアを活用した外国語の自習ができます。

### 3. VOD 端末コーナー

二種類のVODサーバに蓄積された外国語学習用映像を閲覧することができます。

### 4. 隔離型外国語学習ブース

16個の個室からなります。各個室ブースには、BS/CS/KBS/海外衛星放送視聴装置、ビデオ/カセット/CD/MDデッキ、iMac(またはWindows)が設置されています。

### 5. マルチメディア自習室

CG(コンピュータ・グラフィック)作成装置、DTM(デスクトップ・ミュージック)、DTV(デスクトップ・ビデオ)などのシステムにより、さまざまなコンテンツを作成・編集できるようになっています。

### 6. 情報化グループ学習室

プレゼンテーション設備により、ネットワークやコンピュータを利用したグループ学習が行なえます。学習室の定員数は、10人ほどです。この部屋は予約制です。内線:5452へ

#### 開室時間

月～金 9:00～20:45

土 10:00～16:45

(西図書館閉館日はお休みです)

## センター長の苦悩(\*)

**桃唐**「うー、暑いなあ。新しく出来た3階のマルチメディアフロアーはどうしてこんなに暑いんだ。そうだ、情報化グループ学習室でアイスクリームを食べよう」

**アナウンス**「桃唐先生、桃唐先生、情報化グループ学習室でアイスクリームを食べるのはおやめ下さい！マルチメディアフロアーでは飲食は禁止されています。なお、当フロアーは防犯カメラで常時チェックを行っております」

**センター長**「桃唐先生、教官がそんなことをしては困ります。この間も、2階のポスタープリンターでエッシャーの絵を大きくプリントして、折り紙にして遊んでいたでしょう。ポスタープリンターは研究教育用で、利用依頼も多いのですから」

**桃唐**「あっ、N先生。いや、あれは今度の国際会議のポスターセッション用に使わせていただくテストをしていたので、、、ポスタープリンターは利用価値が高いですね。それに、こういうサービスで学内のいろいろな分野の人たちと交流できるのもいいです。この間も、S-S学部の方が、研究室製アイスクリームを持ってきてくれて、私もお相伴しました。もっとも、準備不足の原稿を持ってきて、何とかしてくれという人も結構いて、SさんやMさんが夜遅くまで苦労していることもあります。(\*\*)」

しかし、ポスタープリンターも人気だし、ビデオ編集装置やカメラも、SAの人たちがどんどん利用したり、K学部の人たちが教材作りに利用したり、そして今度オープンした3階も、ときどき待つ人がでるほど盛況だし。センターの未来は明るいですね。おや、どうしたんですか、難しい顔をして」

**センター長**「利用率から言えばその通りなんですけど。でも、我々の情報教育が本当に成功しているのか考えてしまうことがよくあるのです。確かに学生たちは電子メールもWWWブラウザもどんどん使いこなしています。インターネットを利用して情報の受発信をしている、と言え言えます。でも、実はその大部分は、友達との遊びのメールだったり、ウェブも面白いから見ているので、我々の目的である『知的な道具』として本当に使っているのでしょうか」

**桃唐**「うーん。しかし、道具として使いこなせるようになってくれば、あとそれを使ってどう成長してもらうかは、大学全体の課題ですから、センターだけが頑張っても、、、」

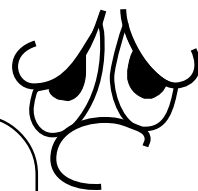
**センター長**「しかし、学生から来るメールでも、自分が誰であるか名乗らずにいきなり質問を始めたり、課題のレポートをウェブから単にコピー・ペーストして作ったり、著作権のことを考えずに自分のホームページを作ってしまった。そういうのを見ていると考え込んでしまいます。もちろん、非常に有意義に使ってくれている学生もたくさんいますが」

**桃唐**「電子メールでの礼儀や、ホームページでの著作権の話は教わってきていないでしょうから、情報教育でやらないといけませんね。でも、そもそも躰が出来ていないという人もいるんじゃないかなあ。センターの机の中にゴミを突っ込んでいたり、空き缶を放置していたりする学生もいますからね。躰センターが必要かな。まあ、そういうのは、見つければ私がねちねちととちめてやりますが。大学生というのは、時にハメをはずしても、高い教養とモラルを身につけるべく自己トレーニングしていくべきだという矜持を持った学生が減っているのは全国的な傾向ですね」

(\*) 本稿はフィクションです。

(\*\*) ポスタープリンター用原稿作成にあたっては

<http://www.riise.hiroshima-u.ac.jp/Library/RIISE-Comp/posterprinter/>  
をご覧ください。



# Kくんの夜番日誌

~ RIISEの夜番(金曜日編) ~

これは情報教育研究センター(RIISE)で日夜お仕事に励む夜番な日記である・・・

夜番って? そう、夜番はセンターの夜を外敵から守りあらゆる困難に立ち向かい、日々の肉体の鍛錬を惜しまない番人の集まりである。見ての通り、準備室にいる夜番スタッフ達は鍛え抜かれた精鋭ばかりである。就職が決まり、もうすぐ夜番を卒業するS2氏はお腹でボールペンが飛ばせるほど鍛え抜かれている。不意に攻撃されたときでもこのボールペン攻撃によって相手が怯むことは間違いないだろう(センター便り第4号の夜番日誌参照)。作者もボールペンを飛ばせるようにとアメリカな食生活を送るように努力?している毎日である。

いかに夜番達がむきむきであるかを力説したところで、本題に入ろう。そう、本当の夜番のお仕事というのは平日は夕方5時から夜9時の4時間、そして、土曜の朝9時から夕方5時までの8時間、様々な質問やトラブルに対応し、センターの夜を外敵から守り・・・もうええっちゅうねん。つまりは、昼間常駐するスタッフに代わり、夜の間や土曜のセンターの運用に携わるお仕事である。

## 月×日(金)午後4時半

夜番は全部で4人在籍していて、曜日毎に担当が決まっている。私の担当は金曜と土曜だ。そう、私にとって金曜日はとても忙しい。朝9時から12時過ぎまで「物理学実験」という総合科学部開設の物理の実験のTAがあり、夕方5時から夜番までの数時間の間に御飯、自分の研究を済ませなければならない。しかも、夜番というお仕事、途中で外に出て食事をするわけにはいかないので、ちょうど5時前にご飯を食べるか、夜番が終わってから食べるかの選択をしなければならない。今日は、夜の10時から秘密の特訓があるので夜番が終わってからではご飯なんか食べている暇はない。え~い、今日も嫌がる胃の中に無理やり詰め込んでしまえー。

## 午後5時

おやつともとれるような強引な夕食を食べて西図書館内のRIISE準備室に到着。やはり胃が悲鳴を上げている。急いできたので胃の中はまさにシェーカー状態だ。早速冷たい麦茶をいただく(RIISE演習室は飲食禁止です)。大丈夫なんか?自分のおなか。と心配しつつもゴクゴクいってしまう。やはり夏は麦茶に限る。

今夜夜番を引退するS2さんにみんなで寄せ書きをしていたので私も一言書くことになった。マック好きな作者にとってS2さんがいなくなることはかなりのショックだ。あれほどまでにマックな人間もそういな

い。うーむ。いかんいかん、ぼーっとしてる暇はない。明日の送別会の出席確認をしてLinuxの端末とNEXTSTEPの端末にログインし仕事の準備をする。今年の春からここRIISEの端末も大きく変化した。まず演習室と自習室の一部、それから図書館3階のスペースが情報処理センター(IPC)のLinux端末になり、去年度までRIISEで活躍していたNEXTSTEPの端末は自習室に数十台と縮小された。NEXTSTEP&Macintoshをこよなく愛する作者としては少々つらい気持ちになるが、これも時代の流れかと自らを納得させている。(NEXTSTEPの端末が使いたい方は準備室でアカウントの登録をすると利用できます。)

さてさて、5時から7時の間は利用者が多く、その分質問、トラブルが多い。今日はまだレポートの締め切り間際というわけではないので目が回るほど忙しくはない。ネットスケープでインターネットをしている最中に動かなくなってしまった等のトラブルが何件か来ている。

## 午後6時

質問のほうも落ち着いてきた。今の内に夜番日誌を書かねば。何か面白い出来事はないかな。お、SAのA山氏だ。SAとはスチューデント・アドバイザーのことで、ボランティアでRIISEの運用のお手伝いをしてくれるとても頼りがいのある人達の集まりである。明日のS2氏の送別会の打ち合わせをA山氏とする。

そう、最近つくづく思うのはSAの学生と接していると、とてもきゃぴきゃぴな自分になれるということだ。おかげでWeb上でできる精神年齢判断では自分の年よりも10歳も若く出てきた。ありがとう、SAのみんな。ありがとう、精神年齢判断。

## 午後7時

今日はどうやらあまり質問が無さそう。代わりにSAの若いきゃぴきゃぴ学生がいっぱいいて、最近流行りの×占いで話が盛り上がっている。最近はいろんな占いあって、何がなんだかわけが分からなくなっている。私も山手線占いなるものをやったのだが、結果は新宿だった。自分の生年月日と山手線の停車駅とどうつながりがあるのかさっぱり分からないが話のネタにもなるのでまあよしとする。

## 午後8時

N登先生が最近購入したSE/30という古いマックのマシンの話をする。SE/30とはディスプレイと本体一体型になっていてその容姿はとてもかわいらしく、その可愛さゆえに使用不可能であるにも関わらずオブジェとして部屋に飾っている人もいるくらいである。最近流行りの透明一体型iMacもおしゃれな置き物の一つとなっているが、何十年も前から同じコンセプトでパソコンを作り続けていることには驚くばかりで

ある。

### 午後 8 時 30 分

ああ、質問がない。無さすぎる。やっぱりたまには  
でっかい質問があればいいのにとってしまう。しかも SA の学生達が帰ってしまったのでとても静かだ。  
こういう暇な時間を使って自分の研究をするのだが、  
もう時間がない。ああ。結局今日は何も自分の仕事か  
できていない。泣く泣く閉館準備をする。

### 午後 9 時 00 分

閉館時間になったことをアナウンスして学生さんに  
退出してもらい、窓を閉めたりディスプレイの電源等  
の確認をする(ログアウトしたらディスプレイの電源  
を消すべし)。電気を消してセンターを閉めるとき  
は必ず歌を歌いながらする。そう、小さい子が夜中に  
トイレに行くとき何げに口ずさんでしまうあの心境と

同じだ。歌ったところで何も解決できないのだが……。  
さらに背後に敵がいなか確認しながら最後の戸締ま  
りをする。まさにゴゴ13なみの用心深さだ。  
こうして無事夜番業務が終了した。質問が少ない日  
であったが、質問があったらいつでも気軽にセンター準  
備室内にいるマッコマン、いやスタッフに声をかけ  
て欲しい。特に作者は若者なので見た目スタッフかど  
うか分からないと思う。そういうときはスタッフバッ  
ジを胸に付けているのでそれで見分けて欲しい。明日  
土曜も朝 9 時から仕事だ。10時から秘密の特訓があ  
るので急いで大学を後にする。

(K君は金曜日の夜番と土曜番を担当しています。キャピ  
キャピな彼に声をかけてあげてください。)

## .....The Making of 紹介ビデオ.....

**春**。それは新入生にとって希望と期待に満ちた季  
節である。ところが SA にとってのそれは、同じ  
季節とは思えないほど過酷なものなのであった。

新入生が入学してすぐ、いろいろなガイダンスが行  
われる。情報教育研究センターも広島大学の情報教育  
や設備についてのガイダンスをする。我々 SA は、そ  
のガイダンス用にセンターの紹介用のビデオを制作し  
なければならぬ、あ、いや、制作を買って出るのであ  
る。

その紹介ビデオは、シナリオ、役者から撮影、編集  
まですべて我々 SA で行う。春休みは2ヶ月あるのだ  
からかなり余裕があるように思えるが、それ故なの  
か、いろいろな作業を後に後に回してしまい、今年も  
また直前になってその工程の多さに気づくのであ  
った。

今年のシナリオは、<sup>じょう</sup>情さんというリポーターが主人公  
で、その情さんが情報教育研究センターに事件を探し  
に取材に入るのだが、コンピュータに目を奪われて結  
局コンピュータを使ってみることになってしまう、と  
いうものであった。その中で、自由に使えるコン  
ピュータがある場所の説明や、コンピュータの超基本  
的な使い方を説明する。

主人公の情さんは、\*HKの人気番組『んけんぼく  
のち』のリポーター「ちょさん」を意識した、「おっ  
す、情さんだよ」というせりふとともに登場するとい  
う、インパクトのある人物である。その役には SA の  
H山君が立候補した。立候補という、自ら主人公をや  
ろうという意志に、我々は驚いたのだが、彼の参加し  
ているサークルのことを考えると、なるほどしゃべ  
ることにたけていて、見事に情さんを演じてくれた。

自称新入生の<sup>たかやすよしお</sup>教育情報という謎の人物が情さんの案  
内役として登場するのだが、彼が劇中に学内の施設を  
紹介するとき、総合情報処理センターの英語名の略  
称 IPC を「いっぷく」と口走ってしまったのを聞き逃  
さず、以後 IPC のことを「いっぷく」と呼んでいる新  
入生がいたことを最近になって知って、大変驚いた。  
それとともに、隠しコマンドをセットしておくことの  
意義も再確認したのであった。

撮影が終わっても編集に相当時間がかかる。編集  
は、ノンリニア編集といってコンピュータに映像を取  
り込んでコンピュータ上で編集する方法で行う。先生  
方に夜遅くまでセンターを開けていただき、何度か徹  
夜をして、完成をしたのはガイダンスのある日の前日  
の朝(日曜日!)であった。危なー!

最近になって西図書館の3階がマルチメディアフロ  
アというすばらしい設備を備えた場所として生まれ変  
わった。すばらしいと歓喜の声を上げたが、すぐに脳  
裏をよぎるものがあった。今度はその紹介ビデオの  
制作があるのではないかということである。

とはいっても、ビデオを制作するという作業は、普  
通はできないことで、なかなか面白い。以前からビデ  
オ編集をしてみたいと思っていたりする人や、新入生  
全員に顔を覚えられたい人など、興味のある人は是非  
制作に参加して欲しい。後継者作りに失敗すると、来  
春もまた大変になる、あ、いやいや、またこのビデオ  
制作の楽しみを独占することになってしまうであ  
らう。



情報教育研究センター SA 北臺 如法